

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500167		
法人名	ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホーム長徳	ユニット名	1階ユニット
所在地	宮城県仙台市泉区長命ヶ丘4-14-14		
自己評価作成日	令和 6年 1月 26日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 6年 2月 13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの近くには、郵便局、スーパー、公園などがあり、運動を兼ねて買い物や散歩に出掛け気分転換を図っている。また、市民センターや小学校が近くにあり、お祭りや行事に参加させて頂いている。往診、訪問看護、訪問歯科、訪問マッサージ等を利用し、医療体制が整っている。また、日々の生活の中に体操や運動する機会を作ったり、毎朝体温や血圧測定を行い体調管理をして健康に留意している。食事の楽しみを大切にしており、食事委員会にて、ご入居者様のご希望を取り入れたメニューや季節感・郷土感のあるメニューを提供している。また、敷地内に小さい畑を作り、ご入居者様と共に育て収穫する事で、季節感を味わい、新鮮な野菜を取り入れた食事の提供を行っている。各ユニットでユニット目標を作成し取り組み、より良いサービスの提供に努めました。社用車を2台保有しておりドライブに出掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木造2階建てのホームは長命ヶ丘の閑静な住宅地の一角にある。郵便局や銀行、スーパー、公園、小学校が近くにあり、買い物や散歩に便利な環境にある。会社理念とホーム理念の他に、ユニット目標を定め「健康で笑顔溢れる楽しい生活」の実践に努めている。目標達成計画に掲げた「感染対策をして、従来の外出支援が出来るようにする」は、初詣から始まり将監団地の桜、三本木の向日葵、泉ヶ岳の紅葉等季節を感じるドライブを行い達成している。委員会活動では身体拘束や危険予知のアンケートから課題を掘り下げる等活発に取り組んでいる。開設以来14年、地域に溶け込み町内会との関係性も良好なホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム長徳)「ユニット名 1階 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念・会社理念を毎日朝礼にて唱和し、意識付けが出来ており、理念を踏まえた対応についてカンファレンスやフロアー会議で話し合い実践している。各ユニットで目標を設定し理念に沿ったサービスを提供している。	ユニット目標を設定し、年度末に見直しをしている。「入居者本位の良質なサービスを提供する」のホーム理念を基に、ユニットでは「健康で安全・安心な笑顔溢れる生活空間の提供」の目標達成に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の一員として交流している。運営推進会議を通じて地域の方々に当ホームの活動を伝えている。	町内会に加入し、地域の情報は町内会長が届ける市報や運営推進会議時にメンバーから得ている。ホーム周辺や公園の散歩時は相互に挨拶を交わす。町内会の夏祭りに協賛し、花火をホームのベランダから見学した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症の人の支援方法についてお話ししたり、地域の方からのご相談を受け、お話しを聞き、他事業所につなげたりしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・民生委員・地域包括支援センターの方々に出席を頂き、ホームの取り組みや状況を報告、相談し、ご意見を頂きながら、サービス向上に努めている。地域での行事日程もお聞きしご入居者様と参加している。	偶数月に年6回(4回は資料配布)開催している。近況報告や行事報告等をしている。ボランティアの紹介や入居の判断基準、地域の入居者割合等の質問に回答するなど双方向の会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、毎回地域包括支援センターの方の参加を頂き、ホームの取り組みや状況を報告、相談している。	市の担当課とは、介護認定更新や事故報告等で連携している。地域包括職員が運営推進会議に毎回参加し、状況報告や入居相談をしている。感染症対策や看取り、ケアマネの研修案内があり参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を中心に内部研修を行うと共に、施錠しない施設を目指している。全体会議でも身体拘束について話し合い理解を深めている。	「身体的拘束等適正化検討委員会」を毎月実施している。「緊急性3原則と禁止対象11項目」に基づき、振り返りを行っている。転倒リスクのある方のベッドと靴に鈴を付けて見守りの補助としている。入居者の「鈴付け対応」の必要性の有無を毎回話し合っている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行うと共に、カンファレンスで話し合い職員同志が注意を払っている。また苦情・虐待委員会で事例検討等で職員に虐待の理解・防止を意識付けしている。	内部研修を年2回実施し、高齢者虐待の5類型を確認している。「苦情・虐待委員会」で事例検討し結果を周知している。不適切な言動は職員同士が注意し合う環境にある。管理者は職員のストレス解消に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い制度について学び、理解を深め、個々の必要性について意見交換している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご理解頂けるよう、丁寧な説明を行い、理解・納得を頂いた上で、同意を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、意見や要望をお聞きすると共に、個々のサービス担当者会議開催時や面会時に頂いたご要望は管理者に繋げ反映している。行事もご家族様が参加しやすい日程を考慮している。	面会や家族参加の行事(新年会、夏祭り、敬老会)の際に、意見や要望を聞いている。行事は参加し易い曜日にし、「下膳を担当させて欲しい」の要望に対応した。食欲低下の方に家族の情報からお汁粉を補助食にした。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、フロー会議にて運営に関する意見や提案、施設内危険箇所のアンケートを実施して改善している。また、個人面談を行い、個別に聞く機会を作り、反映できる事は反映させている。	職員の意見でエアコンと加湿器を買い替えた。安全点検チェック表からぐらつく椅子のネジを締めたり、テーブルの脚を交換した。資格取得や研修等は会社の全額補助があり、管理者は柔軟にシフト調整を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況を把握すると共に個人面談を行い、意見等を聞く機会を作っている。また、向上心が持てるように個人目標の設定、外部研修に参加する機会等を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の状況を把握すると共に内外の研修を積極的に受けられる様、情報を発信している。また、研修参加や資格取得時の勤務調整を行い積極的に参加できるように努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や包括ケア会議等に参加し交流する機会を作っている。	地域包括支援センターや行政が計画する研修等がある。調剤薬局に訪問診療後に薬の配達と分包をしてもらい、注意事項等を確認している。福祉用具事業所とは上履の買換えについて相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前ご本人様と面談を行い、要望や不安を傾聴すると共に、関係性作りに努め、安心して生活して頂けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談、入居申込み時から、丁寧な説明を行い、要望や不安を傾聴し、関係性作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込みの相談時や入居前の面談時にアセスメントを行い、お話を聞き、必要があれば、他サービス利用をお勧めする事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、お手伝い等は、積極的に行えるよう配慮し、お手伝い頂いた時は感謝の気持ちを伝え、暮らしを共にする関係を築く様努力している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加をお願いしたり、年4回通信を発行及びご家族様へのお手紙にて最近の様子をお伝えしている。また、変化や状況を報告し共有すると共に、相談し、ご意見を頂き取り入れながら、共に支える関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との連絡、情報交換を行い、支援に努めている。また、友人、知人等のご面会も出来るように配慮している。	家族や甥、姪が面会に来る。友人や知人には電話や手紙で関係を継続している。2カ月に1回訪問する美容師とは馴染みの関係になっている。家族対応で馴染みの美容院に行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにて行うレクリエーション等を通して、共に行い関わり合う事で、関係性を良好に築ける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時のお見舞いや退去後に感謝のお手紙を送り、必要に応じてフォロー出来る様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中や色々なアプローチの中から希望する事や意向を把握するよう努めている。これまでの暮らし方、家具の配置について、ご家族様からお聞きし、ご本人様に沿った希望や意向を検討している。	日常会話から思いや意向を引き出し、連絡ノートで共有している。表出困難な方は、言動や家族の情報から推察して対応している。「午後の紅茶や飲むヨーグルトが欲しい」には職員が買いに行き対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様とのお話しの中から、これまでの暮らしについて把握したり、ご家族様と情報交換を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を記録し、情報を共有し、カンファレンスで、現状について話し合う事で、共通した現状の把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意見や意向をお聞きすると共に、カンファレンスにて、現状を把握し、意見やアイデアを反映した介護計画の作成に留意している。	計画は本人の思いや家族の意向を踏まえ、短期6か月、長期1年で見直している。状態変化時は随時見直している。転倒骨折した方は車椅子移動に修正した。職員の意見を取り入れ現状に即した援助内容となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施は日々記録に残し、カンファレンスにて実施状況を確認、把握しながら実践に取り組み、必要に応じて見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の主体性、自主性を尊重し、可能な限り柔軟な支援が出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センターでのイベントや町内会での行事への参加を通し、地域の一員としての暮らしを楽しむと共に、散歩を兼ねてスーパーや公園に出掛け季節感を味わい、豊かな暮らしが出来る様支援している。また、豊齢カードを活用し外出している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居時、ご家族様からかかりつけ医についてご意向をお聞きしている。本人の状況を客観的に把握し、現状を適切に主治医に伝え、適切な医療が受けられるように支援している。	全員が月2回の訪問診療を受診している。専門医受診は家族が対応している。必要に応じ歯科医の往診がある。訪問看護師が週1回来訪し、入居者の健康管理をしている。緊急時は協力医療機関としている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の状況を客観的に把握し、気づきや変化を伝え相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	積極的に病院関係者からの情報収集に努めたり、医師から治療内容や今後についてのお話がある場合は出席させて頂き関係づくりを行うと共に現状把握に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における医療体制指針」及び「看取りに関する指針」を基に十分な説明を行い、その後も、サービス担当者会議にて、ご家族様と話し合う機会を持っている。また、看取りに関する外部研修に参加し、チームでの支援に取り組んでいる。	「重度化した場合の医療体制指針」「看取りに関する指針」が明文化され、入居時に説明している。看取り期に入った際は「看取り介護の同意書」を得ている。今年は2名の看取り事例があり、看取り後は振り返りを行い、職員の不安解消を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は普通救急講習を受け、心肺蘇生の流れとAEDの使い方、窒息者の対応について研修を受けている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し、(昼・夜間想定)ご入居者様がいち早く非難出来る方法を検討し訓練している。また、緊急時の連絡網の訓練も定期的に行っている。	夜間想定を含み毎月(コロナ発生月を除く)避難訓練を実施している。訓練後の反省として「緊急時持ち出しファイルを忘れた」があり、次回に改善した。食料の備蓄は5日分である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護と接遇について、内部研修を行うと共に、声かけや対応について、全体会議やカンファレンス時に注意を促している。	内部研修では接遇5原則「挨拶・身だしなみ・表情・言葉遣い・態度」を学び、入室の際はノックと声掛けを徹底している。職員同士の会話はプライバシーに配慮し、部屋番号や筆談としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築き、思いや希望を表せる環境を整える努力を行い、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせた柔軟な支援が出来る様に、働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご家族様と相談しながら、その人らしい物を揃えており、更衣時にご意見をお聞きし、相談しながら自己決定が出来る様支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力が発揮できる様に声掛けし、職員と一緒に準備や片付けを行い、食についての話題を提供する事で、好みや希望をお聞きし、メニューに取り入れている。	献立と食材は宅配業者から届く。野菜を切る事を手伝う方もいる。食事は職員も一緒に楽しく食べる。月1回は宅配を止め、お好み焼きや焼きそばを作ったり、希望の多い肉やハンバーグを出前の弁当等に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量を把握し提供すると共に、食事量・水分補給量を記録し把握している。水分量が少ない方には、好みの飲み物を準備したり、工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に合わせて声掛けを行い、できない部分のお手伝いをしている。口腔内検診を受ける事で、一人ひとりの口腔状態を把握すると共に、ご家族様と相談し、必要に応じて歯科受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を記録し、把握している。定期的なトイレの声掛け等を行い、自立した排泄に向けた支援をしている。	半数以上の方が自立している。排泄チェック表と行動パターンを基に、声掛け誘導トイレでの排泄に努めている。夜間はポータブルトイレが1名、呼ばれたらトイレへの誘導やオムツ交換等、個々に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活の中に運動する機会を作り、個々に応じて、水分が十分取れるように工夫し、予防に取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	身体状況から全介助が必要な方にはリフト浴を導入し全員が入浴できる環境を整えている。	週2回の入浴である。リフト浴があり、全員が湯船に入ることが出来る。入浴剤や好みのシャンプーを使い、楽しく入浴している。着替えが大儀な方は、洗濯などの用事を設け声掛けするなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣をご本人様、ご家族様にお聞きしながら取り入れ、気持ちよく休んで頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と相談し薬の目的を把握すると共に、主治医・薬剤師から、薬についての副作用や用法、容量を聞き、職員皆が把握を行い、変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、お手伝い等は、積極的に行えるよう配慮し、張り合いや喜びを感じて頂けるように支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状況やご希望に合わせて、ドライブ支援を行っている。社用車を2台保有しユニット全員が一緒に外出出来るようにしている。	天気の良い日は、ホーム周辺や近くの公園に散歩に行く。季節を感じる外出として、春は桜、夏は向日葵、秋は紅葉鑑賞に行くと共に、農業園芸センターにもドライブに出掛けた。盆や正月に帰宅して、泊まって来た方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望に合わせて所持したり、買い物時にご自分で使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、携帯電話を所持したり、必要に応じてこちらから電話をお掛けする支援をしている。ご家族様へ手紙、年賀状を出したい方には書いて頂き送っている。ご家族様、知人からの手紙も来ている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて飾り物を一緒に作り飾り、居心地良い空間作りをしている。ご入居者様の状況、状態、ご入居者様同士が交流出来るようなテーブル、食席の配置にしている。	リビングは適温・適湿に管理され、明るく居心地の良い空間となっている。壁面に行事の写真が飾られ、テレビ台上の雛飾りが季節を感じさせている。テレビ(DVD)を観たり、軽体操や歌を歌ったり、レクリエーション活動を行うなど憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて、気の合ったご入居者様同士で、相談室を利用して頂いたり、ソファーやテーブル席を利用して頂いている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が、使い慣れた家具や馴染みのある身の回りの物を持参して頂けるようお願いし、ご本人様が使いやすいように配置を共に考えて使用して頂いている。	備品はエアコンとベッドである。テレビやぬいぐるみ等馴染みの物を持ち込んでいる。家族写真や遺影・位牌を飾り、毎日水をあげる方もいる。週刊誌や趣味の園芸等の本を読んだり、一人ひとりが居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分かるような工夫をし、それぞれの歩行能力に合わせて、リビングでの席を工夫したりしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日. Values include 0495500167, ケアネット徳洲会, グループホーム長徳 ユニット名 2階ユニット, 宮城県仙台市泉区長命ヶ丘4-14-14, 令和 6年 1月 26日.

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, URL. Value: http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Values include NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会, 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階, 令和 6年 2月 13日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの近くには、郵便局、スーパー、公園などがあり、運動を兼ねて買い物や散歩に出掛け気分転換を図っている。また、市民センターや小学校が近くにあり、お祭りや行事に参加させて頂いている。往診、訪問看護、訪問歯科、訪問マッサージ等を利用し、医療体制が整っている。また、日々の生活の中に体操や運動する機会を作ったり、毎朝体温や血圧測定を行い体調管理をして健康に留意している。食事の楽しみを大切にしており、食事委員会にて、ご入居者様のご希望を取り入れたメニューや季節感・郷土感のあるメニューを提供している。また、敷地内に小さい畑を作り、ご入居者様と共に育て収穫する事で、季節感を味わい、新鮮な野菜を取り入れた食事の提供を行っている。各ユニットでユニット目標を作成し取り組み、より良いサービスの提供に努めました。社用車を2台保有しておりドライブに出掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木造2階建てのホームは長命ヶ丘の閑静な住宅地の一角にある。郵便局や銀行、スーパー、公園、小学校が近くにあり、買い物や散歩に便利な環境にある。会社理念とホーム理念の他に、ユニット目標を定め「健康で笑顔溢れる楽しい生活」の実践に努めている。目標達成計画に掲げた「感染対策をして、従来の外出支援が出来るようにする」は、初詣から始まり将監団地の桜、三本木の向日葵、泉ヶ岳の紅葉等季節を感じるドライブを行い達成している。委員会活動では身体拘束や危険予知のアンケートから課題を掘り下げる等活発に取り組んでいる。開設以来14年、地域に溶け込み町内会との関係性も良好なホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印, 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印. Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム長徳)「ユニット名 2階 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念・会社理念を毎日朝礼にて唱和し、意識付けが出来ており、理念を踏まえた対応についてカンファレンスやフロアー会議で話し合い実践している。各ユニットで目標を設定し理念に沿ったサービスを提供している。	ユニット目標を設定し、年度末に見直しをしている。「入居者本位の良質なサービスを提供する」のホーム理念を基に、ユニットでは「健康で安全・安心な笑顔溢れる生活空間の提供」の目標達成に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の一員として交流している。運営推進会議を通じて地域の方々にも当ホームの活動を伝えている。	町内会に加入し、地域の情報は町内会長が届ける市報や運営推進会議時にメンバーから得ている。ホーム周辺や公園の散歩時は相互に挨拶を交わす。町内会の夏祭りに協賛し、花火をホームのベランダから見学した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症の人の支援方法についてお話ししたり、地域の方々のご相談を受け、お話しを聞き、他事業所につなげたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・民生委員・地域包括支援センターの方々に出席を頂き、ホームの取り組みや状況を報告、相談し、ご意見を頂きながら、サービス向上に努めている。地域での行事日程もお聞きしご入居者様と参加している。	偶数月に年6回(4回は資料配布)開催している。近況報告や行事報告等をしている。ボランティアの紹介や入居の判断基準、地域の入居者割合等の質問に回答するなど双方向の会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、毎回地域包括支援センターの方の参加を頂き、ホームの取り組みや状況を報告、相談している。	市の担当課とは、介護認定更新や事故報告等で連携している。地域包括職員が運営推進会議に毎回参加し、状況報告や入居相談をしている。感染症対策や看取り、ケアマネの研修案内があり参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を中心に内部研修を行うと共に、施設しない施設を目指している。全体会議でも身体拘束について話し合い理解を深めている。	「身体的拘束等適正化検討委員会」を毎月実施している。「緊急性3原則と禁止対象11項目」に基づき、振り返りを行っている。転倒リスクのある方のベッドと靴に鈴を付けて見守りの補助としている。入居者の「鈴付け対応」の必要性の有無を毎回話し合っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行うと共に、カンファレンスで話し合い職員同志が注意を払っている。また苦情・虐待委員会で事例検討等で職員に虐待の理解・防止を意識付けしている。	内部研修を年2回実施し、高齢者虐待の5類型を確認している。「苦情・虐待委員会」で事例検討し結果を周知している。不適切な言動は職員同士が注意し合う環境にある。管理者は職員のストレス解消に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い制度について学び、理解を深め、個々の必要性について意見交換している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご理解頂けるよう、丁寧な説明を行い、理解・納得を頂いた上で、同意を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、意見や要望をお聞きすると共に、個々のサービス担当者会議開催時や面会時に頂いたご要望は管理者に繋げ反映している。行事もご家族様が参加しやすい日程を考慮している。	面会や家族参加の行事(新年会、夏祭り、敬老会)の際に、意見や要望を聞いている。行事は参加し易い曜日にし、「下膳を担当させて欲しい」の要望に対応した。食欲低下の方に家族の情報からお汁粉を補助食にした。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、フロー会議にて運営に関する意見や提案、施設内危険箇所のアンケートを実施して改善している。また、個人面談を行い、個別に聞く機会を作り、反映できる事は反映させている。	職員の意見でエアコンと加湿器を買い替えた。安全点検チェック表からぐらつく椅子のネジを締めたり、テーブルの脚を交換した。資格取得や研修等は会社の全額補助があり、管理者は柔軟にシフト調整を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況を把握すると共に個人面談を行い、意見等を聞く機会を作っている。また、向上心が持てるように個人目標の設定、外部研修に参加する機会等を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の状況を把握すると共に内外の研修を積極的に受けられる様、情報を発信している。また、研修参加や資格取得時の勤務調整を行い積極的に参加できるように努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や包括ケア会議等に参加し交流する機会を作っている。	地域包括支援センターや行政が計画する研修等がある。調剤薬局に訪問診療後に薬の配達と分包をしてもらい、注意事項等を確認している。福祉用具事業所とは上履の買換えについて相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前ご本人様と面談を行い、要望や不安を傾聴すると共に、関係性作りに努め、安心して生活して頂けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談、入居申込み時から、丁寧な説明を行い、要望や不安を傾聴し、関係性作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込みの相談時や入居前の面談時にアセスメントを行い、お話を聞き、必要があれば、他サービス利用をお勧めする事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、お手伝い等は、積極的に行えるよう配慮し、お手伝い頂いた時は感謝の気持ちを伝え、暮らしを共にする関係を築く様努力している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加をお願いしたり、年4回通信を発行及びご家族様へのお手紙にて最近の様子をお伝えしている。また、変化や状況を報告し共有すると共に、相談し、ご意見を頂き取り入れながら、共に支える関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との連絡、情報交換を行い、支援に努めている。また、友人、知人等のご面会も出来るように配慮している。	家族や甥、姪が面会に来る。友人や知人には電話や手紙で関係を継続している。2か月に1回訪問する美容師とは馴染みの関係になっている。家族対応で馴染みの美容院に行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにて行うレクリエーション等を通して、共に行い関わり合う事で、関係性を良好に築ける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時のお見舞いや退去後に感謝のお手紙を送り、必要に応じてフォロー出来る様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中や色々なアプローチの中から希望する事や意向を把握するよう努めている。これまでの暮らし方、家具の配置について、ご家族様からお聞きし、ご本人様に沿った希望や意向を検討している。	日常会話から思いや意向を引き出し、連絡ノートで共有している。表出困難な方は、言動や家族の情報から推察して対応している。「午後の紅茶や飲むヨーグルトが欲しい」には職員が買いに行き対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様とのお話の中から、これまでの暮らしについて把握したり、ご家族様と情報交換を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を記録し、情報を共有し、カンファレンスで、現状について話し合う事で、共通した現状の把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意見や意向をお聞きすると共に、カンファレンスにて、現状を把握し、意見やアイデアを反映した介護計画の作成に留意している。	計画は本人の思いや家族の意向を踏まえ、短期6か月、長期1年で見直している。状態変化時は随時見直している。転倒骨折した方は車椅子移動に修正した。職員の意見を取り入れ現状に即した援助内容となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施は日々記録に残し、カンファレンスにて実施状況を確認、把握しながら実践に取り組み、必要に応じて見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の主体性、自主性を尊重し、可能な限り柔軟な支援が出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センターでのイベントや町内会での行事への参加を通し、地域の一員としての暮らしを楽しむと共に、散歩を兼ねてスーパーや公園に出掛け季節感を味わい、豊かな暮らしが出来る様支援している。また、豊齢カードを活用し外出している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居時、ご家族様からかかりつけ医についてご意向をお聞きしている。本人の状況を客観的に把握し、現状を適切に主治医に伝え、適切な医療が受けられるように支援している。	全員が月2回の訪問診療を受診している。専門医受診は家族が対応している。必要に応じ歯科医の往診がある。訪問看護師が週1回来訪し、入居者の健康管理をしている。緊急時は協力医療機関としている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の状況を客観的に把握し、気づきや変化を伝え相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	積極的に病院関係者からの情報収集に努めたり、医師から治療内容や今後についてのお話がある場合は出席させて頂き関係づくりを行うと共に現状把握に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における医療体制指針」及び「看取りに関する指針」を基に十分な説明を行い、その後も、サービス担当者会議にて、ご家族様と話し合う機会を持っている。また、看取りに関する外部研修に参加し、チームでの支援に取り組んでいる。	「重度化した場合の医療体制指針」「看取りに関する指針」が明文化され、入居時に説明している。看取り期に入った際は「看取り介護の同意書」を得ている。今年は2名の看取り事例があり、看取り後は振り返りを行い、職員の不安解消を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は普通救急講習を受け、心肺蘇生の流れとAEDの使い方、窒息者の対応について研修を受けている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し、(昼・夜間想定)ご入居者様がいち早く非難出来る方法を検討し訓練している。また、緊急時の連絡網の訓練も定期的に行っている。	夜間想定を含み毎月(コロナ発生月を除く)避難訓練を実施している。訓練後の反省として「緊急時持ち出しファイルを忘れた」があり、次回に改善した。食料の備蓄は5日分である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護と接遇について、内部研修を行うと共に、声かけや対応について、全体会議やカンファレンス時に注意を促している。	内部研修では接遇5原則「挨拶・身だしなみ・表情・言葉遣い・態度」を学び、入室の際はノックと声掛けを徹底している。職員同士の会話はプライバシーに配慮し、部屋番号や筆談としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築き、思いや希望を表せる環境を整える努力を行い、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせた柔軟な支援が出来る様に、働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご家族様と相談しながら、その人らしい物を揃えており、更衣時にご意見をお聞きし、相談しながら自己決定が出来る様支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力が発揮できる様に声掛けし、職員と一緒に準備や片付けを行い、食についての話題を提供する事で、好みや希望をお聞きし、メニューに取り入れている。	献立と食材は宅配業者から届く。野菜を切る事を手伝う方もいる。食事は職員も一緒に楽しく食べる。月1回は宅配を止め、お好み焼きや焼きそばを作ったり、希望の多い肉やハンバーグを出前の弁当等に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量を把握し提供すると共に、食事量・水分補給量を記録し把握している。水分量が少ない方には、好みの飲み物を準備したり、工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に合わせて声掛けを行い、できない部分のお手伝いをしている。口腔内検診を受ける事で、一人ひとりの口腔状態を把握すると共に、ご家族様と相談し、必要に応じて歯科受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を記録し、把握している。定期的なトイレの声掛け等を行い、自立した排泄に向けた支援をしている。	半数以上の方が自立している。排泄チェック表と行動パターンを基に、声掛け誘導トイレでの排泄に努めている。夜間はポータブルトイレが1名、呼ばれたらトイレへの誘導やオムツ交換等、個々に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活の中に運動する機会を作り、個々に応じて、水分が十分取れるように工夫し、予防に取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	身体状況から全介助が必要な方にはリフト浴を導入し全員が入浴できる環境を整えている。	週2回の入浴である。リフト浴があり、全員が湯船に入ることが出来る。入浴剤や好みのシャンプーを使い、楽しく入浴している。着替えが大儀な方は、洗濯などの用事を設け声掛けするなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣をご本人様、ご家族様にお聞きしながら取り入れ、気持ちよく休んで頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と相談し薬の目的を把握すると共に、主治医・薬剤師から、薬についての副作用や用法、容量を聞き、職員皆が把握を行い、変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、お手伝い等は、積極的に行えるよう配慮し、張り合いや喜びを感じて頂けるように支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状況やご希望に合わせて、ドライブ支援を行っている。社用車を2台保有しユニット全員が一緒に外出出来るようにしている。	天気の良い日は、ホーム周辺や近くの公園に散歩に行く。季節を感じる外出として、春は桜、夏は向日葵、秋は紅葉鑑賞に行くと共に、農業園芸センターにもドライブに出掛けた。盆や正月に帰宅して、泊まって来た方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望に合わせて所持したり、買い物時にご自分で使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、携帯電話を所持したり、必要に応じてこちらから電話をお掛けする支援をしている。ご家族様へ手紙、年賀状を出したい方には書いて頂き送っている。ご家族様、知人からの手紙も来ている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて飾り物を一緒に作り飾り、居心地良い空間作りをしている。ご入居者様の状況、状態、ご入居者様同士が交流出来るようなテーブル、食席の配置にしている。	リビングは適温・適湿に管理され、明るく居心地の良い空間となっている。壁面に行事の写真が飾られ、テレビ台上の雛飾りが季節を感じさせている。テレビ(DVD)を観たり、軽体操や歌を歌ったり、レクリエーション活動を行うなど憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて、気の合ったご入居者様同士で、相談室を利用して頂いたり、ソファーやテーブル席を利用して頂いている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が、使い慣れた家具や馴染みのある身の回りの物を持参して頂けるようお願いし、ご本人様が使いやすいように配置を共に考えて使用して頂いている。	備品はエアコンとベッドである。テレビやぬいぐるみ等馴染みの物を持ち込んでいる。家族写真や遺影・位牌を飾り、毎日水をあげる方もいる。週刊誌や趣味の園芸等の本を読んだり、一人ひとりが居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分かるような工夫をし、それぞれの歩行能力に合わせて、リビングでの席を工夫したりしている。		